

(様式 1)

自 己 評 価 表

(愛媛県立北宇和高校三間分校)
学校番号 (43)

グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)
○確かな学力と自ら学び考える力の育成 少人数教育を通じて、生徒一人一人の学習スタイルや進路希望に応じたきめ細かな指導を行い、基礎学力の確実な定着を図ります。 ○豊かな心 地域の文化や歴史、自然などを学びの素材とし、地域と連携した総合的な探究の時間を通して、課題解決に向けた実践力を養います。 ○社会的自立力 他者との協働的な学びを通して、多角的な視点を養い、自らの考えを深め、表現する力を育成します。	○2年次からは進路や適性に応じた教育課程を編成し、個別最適化を進めます。「分かる授業」を実践することで、学習意欲を喚起し、体験的な学習を通して、農業への興味・関心を高め、自ら学ぶ態度を育成します。 ○ボランティア活動を推進し、地域との結びつきを大切にした教育活動を展開し、豊かな人間性や社会性を育成します。また、自分を大切にし、他人を思いやる心、人権を尊重する心を育てます。 ○一人一人の活動・活躍の場を多く与え、自己有用感および望ましい職業観・勤労観を育てます。各種検定・資格取得を奨励し、生徒のキャリアアップにつなげるとともに、希望に応じた通級による指導(自立活動)も実施します。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、84%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、12%が「どちらとも言えない」、4%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	グラデュエーション・ポリシーを教職員に折に触れて周知し、生徒の成長を可視化する仕組みを強化する。また、成功事例を共有し、振り返りやフィードバックを行うことで、生徒も教職員も成長を実感できるよう取り組む。
学校経営	地域との結びつきを大切にした教育の実践	地域の教育力を生かし、地域行事やボランティア活動への一人1回以上の参加を目標とする。 評価基準 A 95%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 50%以上 E 50%未満 ホームページの適時更新、家庭通信の発行により、中学生、保護者や地域住民等への情報発信を積極的に行う。	A	生徒の自己評価での、ボランティア活動への積極的参加がR6年度と比べて、0.5ポイント上昇した。農業機械科を中心に全校生徒が参加し、黒米づくりを通した小学生との交流事業やコスモス畑の耕うん作業を実施することで、地域との継続的な関わりを深めることができた。さらに、中山池イルミネーションの飾り付けへの参画等、地域行事への協働を通して、生徒の社会参画意識の向上が見られた。	総合的な探究の時間を効果的に活用し、地域との結びつきを一層重視した教育活動を展開する。また、生徒会・家庭クラブ・農業クラブを中心として校内への周知や参加の呼びかけを強化し、生徒が主体的に地域と関わる機会の拡充を図る。
	働き方改革の推進	教職員がそれぞれの個性を発揮し、生き生きと活躍できる職場環境を整備する。 ICTを活用し業務の効率化を図り、勤務時間外在校等時間の削減を目指す。1か月の勤務時間外在校等時間が45時間以上の教職員数0を目指す。 評価基準 A 0人 B 5人以下 C 10人以下 D 15人以下 E 16人以上	B	教職員ストレスチェックの結果から、本校教職員のストレス状況は、県平均と比較しても低い水準にあることが分かる。昨年に引き続き、教職員がワーク・ライフ・バランスを意識しながら、意欲的に業務に取り組んでいると考えられる。また、勤務時間外在校等時間が月45時間以上となる教職員数は、今年度は月0~1名前後で推移しており、働き方に対する教職員の意識改革が着実に進んでいると評価できる。	引き続きICTの活用を一層充実させ、校務の効率化をさらに推進する。あわせて、各課において業務内容の点検・見直しを行い、業務量の偏りを把握した上で、可能な限り平準化を図り、教職員が働きやすい職場環境の整備に努める。

学 習 指 導	学習習慣の確立	進路意識や目的意識を持たせ、学習意欲の向上を図り、授業と家庭学習との学習サイクルの習慣化を図る。また、ICTの活用により、家庭学習の充実に向けて、課題設定の工夫改善を行う。一日2時間以上の家庭学習習慣の定着を目標とし、学年、学級で学習時間の増加に向けた取組をする。 評価基準 A 2時間以上 B 1時間30分以上 C 1時間以上 D 30分以上 E 30分未満	A	調査期間中の家庭学習時間調査では、平均141分（2時間以上）であった。	目標を持たせながら学習意欲を向上させ、授業における課題の出し方の工夫改善に努める。
	読書指導の充実	SHR前に読書タイムを設定し、読書する習慣を身に付けさせる。 図書委員会活動を活性化させ、興味、関心を高めるために図書館の環境整備を図る。 評価基準（月平均の図書館利用日数） A 10日以上 B 5日以上 C 3日以上 D 1日以上 E 0日	B	朝の読書などを通して読書習慣が身につけてきている。図書館の月ごとの利用日数は一人当たり平均6日であった。	図書室での本の閲覧が増えるように、委員会などとともに声掛けや本の紹介を続ける。
	教科指導の充実	課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な深い学びの視点に立って、主体的・対話的な授業形態や授業方法等の工夫・改善を図るため、教員のスキルの向上に努める。 よく分かり、学び合う授業を実践して、生徒一人一人の良さをみつめ伸ばす教育を推進する。 観点別による学習評価を行い、学習改善につなげる。 評価基準（ICT活用・授業改善研究授業・研修会等実施） A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回 E 0回	A	各教科において日常的にICT活用授業を実施している(10回以上)。授業改善の研究授業は3回、研修会は2回であった。	観点別評価をもとに、学習改善をはかるとともに、教員の指導改善にもつなげていく。
	言語活動の充実	「話す力」、「聞く力」、「話し合う力」等を育成する場面を、教育活動全般を通して、意識的に数多く設定する。 ペア学習や班別学習等の協働的な場面を設定し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、深い学びにつなげる。 評価基準（成果発表会及び協働的活動の回数） A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 0～1回	A	各教科において、協働的な学習やまとめ、発表会を定期的に実施している。教科における探究や課題研究などでも発表する場面があり、年5回以上を達成している。	次年度は少人数になるので、生徒間だけでなく、複数の教員も参加して学習活動を活発にし、「話す力」、「聞く力」、「話し合う力」等を育成する場面を増やしていきたい。
生 徒 指 導	基本的生活習慣と規範意識の確立	さわやかで明るいあいさつのできる生徒を育成する。 高校生らしい清潔で端正な身だしなみを心掛けさせ、身だしなみ指導では違反の繰り返しをなくす。 評価基準 A 複数回不合格者0名 B 1名 C 2名 D 3名以上	D	挨拶に関して評価アンケートのポイントが上がっているが点数的には高くない。身だしなみに関しては、同じ生徒の繰り返しを未然に防げなかった。	挨拶も身だしなみも、楽しい学校生活があればこそ更に良くなると思われる。強制ではなく自発的に向上するような雰囲気作りをしていきたい。
		授業開始のチャイム前に全員着席し、落ち着いた雰囲気ですることができるようにさせる。 校則や社会のルールを守ること、自分自身や他人の命や心を大切にする意識を養う。 登下校時の交通事故0件、交通違反0件。	A	学年団の指導により、礼儀正しい生活態度である。校則、社会のルールもよく守れている。	引き続き生徒・教職員ともにルールの順守、マナーの向上に努めたい。

生徒指導	生徒理解と家庭や地域との連携の充実	年3回以上の個別面談を実施し、実施方法も工夫を重ねて生徒理解に努める。 教育相談体制を充実させるとともに、準スクールカウンセラーとの連携を深め、生徒一人一人に寄り添う、きめ細やかな生徒指導の実践に努める。	A	人権教育課、特別支援教育課の立案・計画の下、スクールカウンセラーとの連携もうまくできた。	長欠の経験のある生徒も残る。引き続き手厚い体制を整えていきたい。
		生徒の学校生活の様子を記録に残し積極的に公開すると共に、保護者や地域との連絡を密に取り、信頼関係を結べるよう努める。 ホームページの更新（授業外の生徒の活動） 評価基準 A 月10回 B 月8回 C 月6回 D 月4回 E 月2回以下	B	配布物が保護者に手渡っていないアンケート結果もある。その分しっかり発信していきたいが、更新が10回に届かない月もあった。	電話連絡等、保護者と担任との連絡は密に取れている。この体制を引き続き維持していきたい。
	部活動等の活性化	部活動の改変や本校との連携を深め、生徒の要望にきめ細やかに対応することで、部活動に対する生徒の意欲を高めさせる。 部活動加入率90%以上 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 70%以上 E 70%未満 部活動に対する生徒の満足度 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 E 60%未満 地域行事や、お遍路文化の継承など三間地域に貢献できる活動に積極的に参加させ、生徒の新たな活躍の場を広げる。 地域活動への参加、年間一人1回以上の生徒参加率 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 E 60%未満	B	最も大所帯の地域情報ビジネス部については、外部にも認知・評価されつつあり、多方面から参加(出店)依頼をいただくようになった。ボランティア部もお遍路さんへのおもてなしに励んでくれた。	来年度の生徒は3名。それぞれが重役を担う形となるが、負担過多にならぬよう留意しながら、活躍の場を提供していきたい。
人権教育	生徒の人権意識を深める活動の実施	人権・同和教育ホームルーム活動や生徒人権委員会の活動を充実させ、「人権だより」や「人権壁新聞」の発行を通して、人権意識の高揚を図る。	B	人権・同和教育ホームルーム活動では、各担任が十分に準備して取り組んだ。「人権だより」は、人権に関するコラム、人権に関係する行事の振り返りがなされた。「人権壁新聞」は、6月、9月、10月に発行できた。	西階段踊り場の「人権コーナー」の内容を充実させる。「人権だより」は、多くの人に読んでもらえるよう、人権の学びになるよう工夫していく。
		全校面接や悩みに関するアンケートを実施し、学校が安心して生活できる場となるよう相談体制を充実させる。	B	悩みに関するアンケートにより生徒の悩み等の状況を確認し、面談を行い、より具体的な状況の把握と助言等を行うことができた。	生徒の心の悩みに対する指導・支援体制の一層の充実を図る。
進路指導	キャリア教育指導の充実	総合的な探究の時間（コスモスタイム）・課題研究の充実を図り、自己実現の意識と社会人としての実践力を高めながら、望ましい職業観・勤労観を育成する。 A 十分な成果があった B 一応の成果があった C あまり成果がなかった D 成果がなかった	B	2年進路探究、3年進路実現とそれぞれの目標に向けた実践的な取組を行うことができた。また、3年生は地域の事業所を訪問して行事の参加依頼やお礼の挨拶に行くなど地域と連携した活動も行った。	生徒数は少なくなるが、実践的な講座や地域と連携した活動等を充実させ、社会的自立につながる力やコミュニケーション力を身に付けさせたい。
		生徒会、家庭クラブや農業クラブ、委員会活動において、一人一役以上を目標に、自主的・実践的な活動を展開し、自己有用感を育む。	B	少人数ということもあり、ほとんどの生徒が何らかの委員や役員として活動できたが、生徒の自主性という部分には課題が残る。	来年度はさらに人数が減るため、生徒一人当たりの負担も増え、十分な活動ができるかという問題もある。活動内容等検討しなければならない。

進路指導	キャリア教育指導の充実	生徒が自己の将来を見据えた生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう系統的な指導計画を基に進路ガイダンスや面接指導を充実させる。 評価基準（進路ガイダンスや人材育成講座の実施3回以上） A 3回以上 B 2回 C 1回 D 0回	A	2年生対象に企業説明会、3年生対象に進路説明会と身だしなみ講座を実施した。また、3学年と連携をとりながら、進路決定に向けた面接指導にも取り組んだ。	来年度、生徒数は3名になるが自己の進路選択の一助になるような指導を継続したい。
	個に応じた進路指導の充実	資格・検定の取得を奨励し、3年間で1資格（3級以上）以上の取得を目指す。目標に取り組む経験を通して、達成感を味わわせ、自信を育む。 評価基準（1資格以上の取得率） A 90%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 70%未満	A	各教科担任や学年の協力を得て、様々な資格の紹介、取得の奨励に努めたため、今年度は生徒全員が1資格以上取得した。	来年度も、学年や各教科担任と連携し、資格取得の奨励に努めたい。
		3年生の面接指導等を通して進路意識を高め、個に応じたきめ細かな進路指導を行うことで卒業時の進路決定率100%を目指す。 評価基準 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 75%以上 E 75%未満	A	学年、特別支援教育課と連携し、生徒の状況に応じた進路指導を行うことができた。全員進路先が内定したため評価をAとした。	生徒・保護者・学校とで進路についてきめ細かな情報交換をしながら、生徒が安心して進路実現できるサポート体制を築きたい。
安全教育と防災教育	学校安全体制の強化・充実	学校安全に対する意識を高め、災害発生時に的確な行動ができるよう、実践的・組織的な活動を充実する。 A 5回以上 B 3回以上 C 2回 D 1回 E 0回	A	防災行事、避難訓練など全て計画通り行うことができた。防災行事では、昨年の降雨体験装置などのほかに、耐震車やけむり体験といった新たなものも加えてより充実したものになった。こども園の園児の避難訓練に参加したり、防災訓練にこども園や小・中学校を招くなど地域との連携も深められた。	生徒数の減少のため、今年度のような大規模は防災行事はできないかもしれないが、地元の小・中学校と連携を取りながら充実した防災教育を行うようにしたい。 本年度2度目となった予告なしの避難訓練の課題を検討して災害が起こったときに対処できる力を付けられる内容にしたい。
	防災教育の充実	防災意識の向上を目指すとともに、地域の防災活動や災害時の支援活動において、自らの役割を判断し、積極的に行動できる生徒を育成する。 生徒の防災士取得者3名以上を目指す。 評価基準 A 3名以上 B 2名以上 C 1名 D 0名	D	防災行事や避難訓練などを通して防災教育の充実を図り、地域との連携を深めた地域に根差した活動もできた。また、今年から校舎内において個人用防災セットの備蓄を始めた。 防災士の資格を取る生徒は0名であった。声かけは行ったが、残念な結果になった。	防災意識が高いということが防災士を取るということではないが、来年度も資格取得に向けた声かけはしていきたい。 少人数ではあるが、生徒自らが考え、判断できるようになるために、できるだけ実践的な学習の機会を設けるようにする。
	保健指導の充実	健康な生活を送るために必要な知識を身に付けさせ、自ら実践する力を養う。 心身の健康に留意させ、出席率94%以上を目指す。 評価基準 A 94%以上 B 92%以上 C 90%以上 D 88%以上 E 88%未満	B	健康診断の結果を踏まえ、治療が必要な生徒に個別の保健指導を行い、健康意識の向上を図った。出席率93%	学校医等と連携し、健康に役立つ知識や最新の情報を提供し、望ましい生活習慣への行動変容を促す。
特別支援教育	一人一人に応じた指導・支援の充実	障がいの有無に関わらず、生徒が安心して学び、自己実現に積極的に取り組める学習環境づくりや合理的配慮の提供を目指す。そのためには、全教職員が特別支援教育の必要性を理解し、インクルーシブ教育の推進に向けた取組ができるよう、校内研修の充実に努め実践力の向上を図る。	A	生徒の実態を基に、合理的配慮の工夫や校内支援体制についてのワークショップを実施した。また、生徒指導課とテーマを共有して、教育センターの出前講座の研修を依頼し、どのような場面でも適切な生徒対応ができる、知識やスキルを習得することができた。	高等学校における通級による指導の先駆的校として、どの教員も通級指導ができる知識と技能を身に付けることができる研修を行う。

特 別 支 援 教 育	自立と社会参加に向けた教育の充実	特別な支援を必要とする生徒の理解と支援については、進路決定に向けて他機関との連携を図りながら、個に応じた支援を工夫する。 「個別の教育支援計画・個別の指導計画」 「自立活動の個別の指導計画」を効果的に活用し、切れ目ない支援の継続を図る。	A	今年度は、宇和島産業技術専門校の事業を取り入れ、普通高校では難しい一般就職（障がい者枠）に挑戦した。1か月間の職業訓練が実施できたことは、本校の、教育課程の編成や校内支援体制の整備等、特別支援教育の取組から進路決定につながった。今後も、関係機関との連携を図っていく。	生徒の実態に基づいたきめ細やかな支援・指導を充実させ、生徒が望む自立と社会参加を目指す。
----------------------------	------------------	--	---	--	---

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。